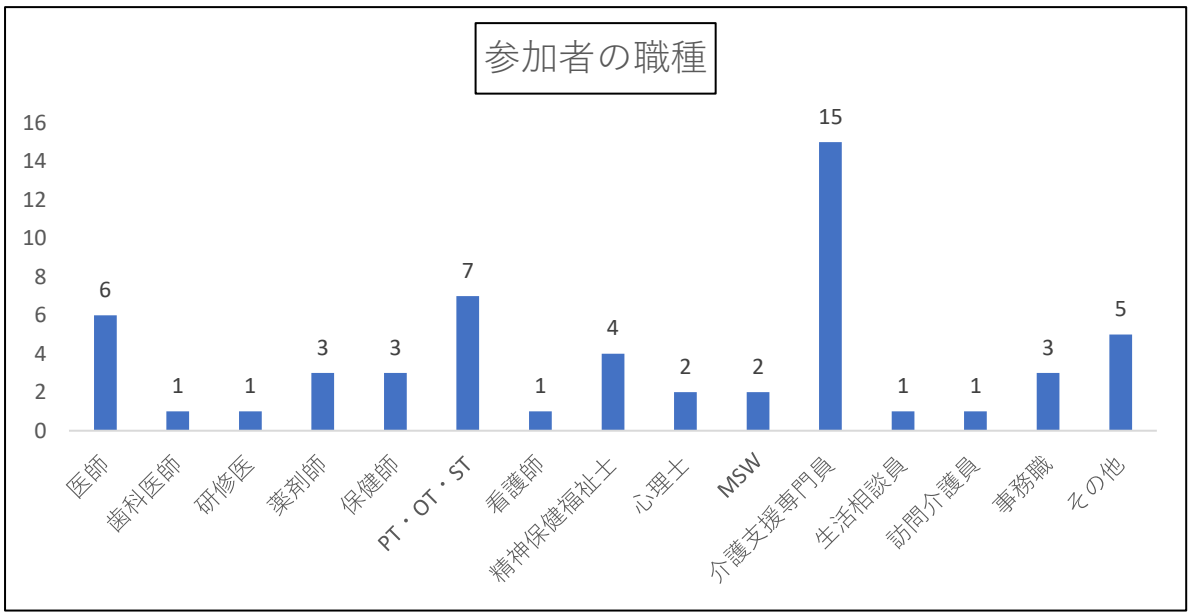
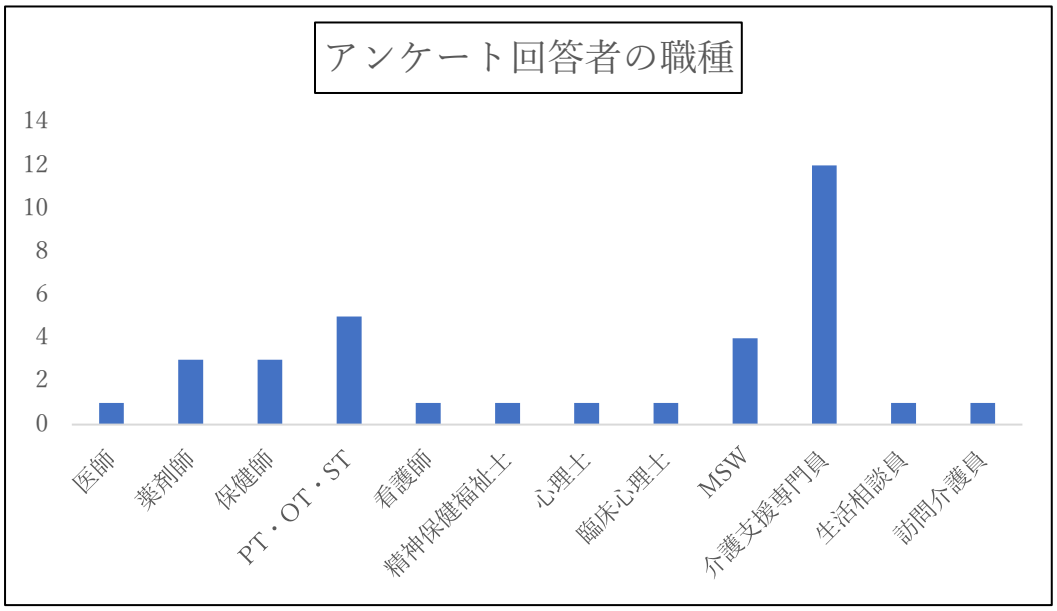
令和４年度第２回認知症研修会　研修後アンケート集計結果

◇参加者の職種　　参加者 55 人

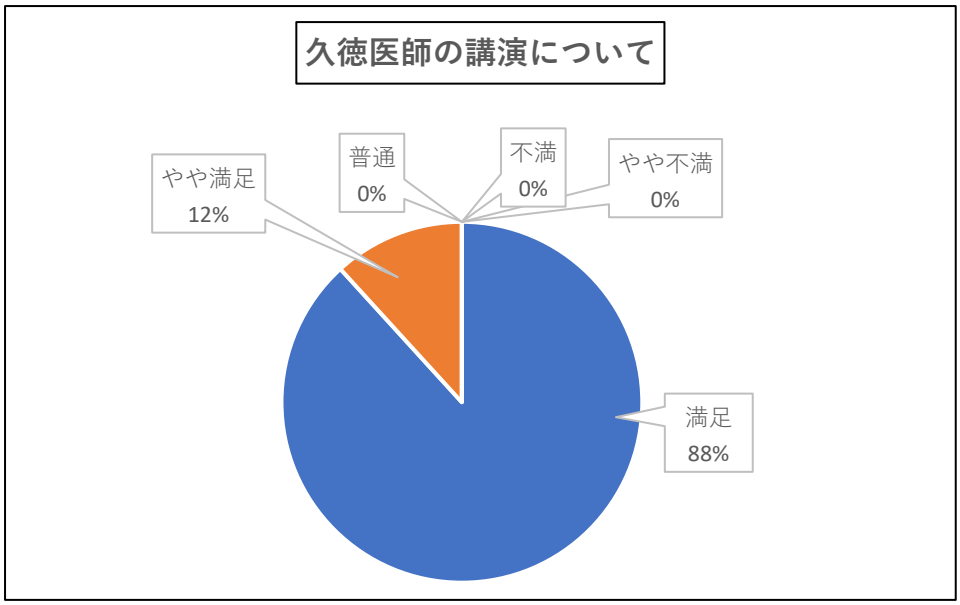


その他の職種：医師事務作業補助者、生活相談支援センター就労支援員
生活支援コーディネーター、成年後見相談支援センター法人後見専門員
技術職

１　アンケート回答者の職種　　回答者数３４人

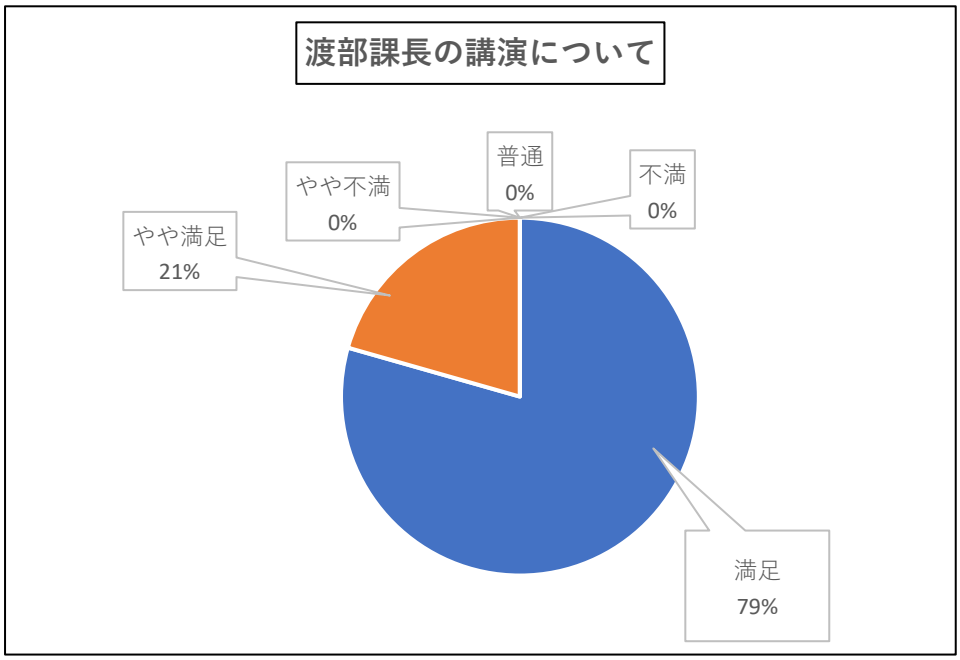


2　研修の満足度



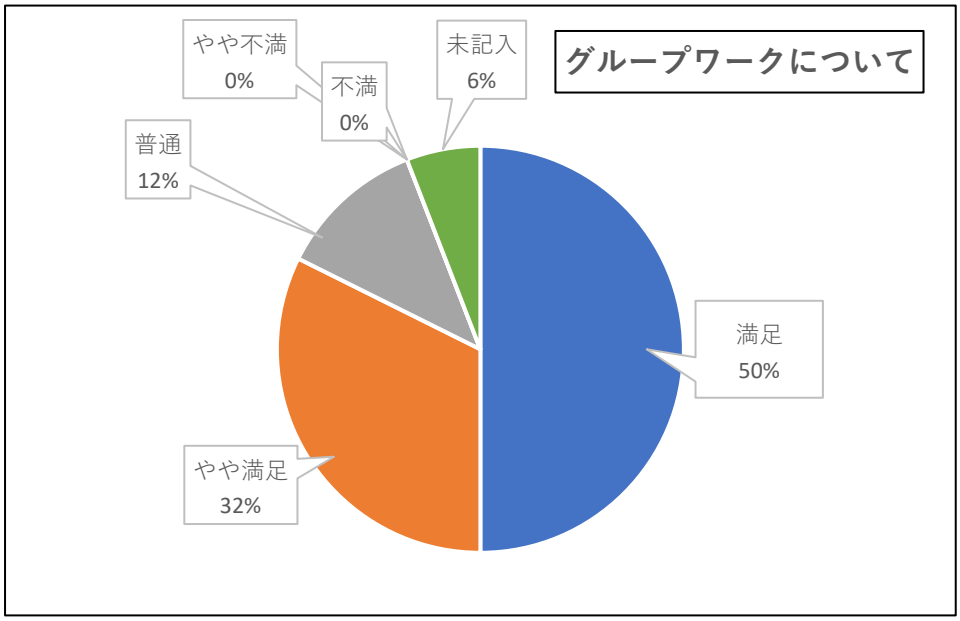
満足	30
やや満足	4
普通	0
やや不満	0
不満	0

（人）



満足	27
やや満足	7
普通	0
やや不満	0
不満	0

（人）



満足	17
やや満足	11
普通	4
やや不満	0
不満	0
未記入	2

（人）

※時間が短かったという書き込みが２件あり

3　今回の研修で学んだことを生かして、これからどんな行動・対応をするか。

・認知症患者さんの免許証の返納について、判断、対応が難しいことが分かった。こういう事例に遭遇した場合、医師や多職種のスタッフと連携を図っていきたい。
・運転能力に影響が出やすい薬を飲んでいる人に、どれくらい運転するか聞き取り、場合によっては運転しないように伝えていきたい。返納に前向きになれる声掛けをする。(薬剤師)
・免許の卒業についてコメディカルと一緒に話し合うきっかけになった。生活全体を見ながら少しずつ免許の卒業が出来る様、繰り返しアプローチできればと思った。
・高齢者にとっての免許証の重要性を理解しながらも、それに伴うリスク、免許返納後の代わりとなる手段を提示することの必要性、対応の仕方が学べた。
・免許の卒業については、早いうちから少しずつ話し合っておくことも必要だと思った。また、返納後の生きがいや楽しみ等の代替え案なども提案できるようにしていきたい。
・警察への相談は敷居が低いことが分かった。今後必要な際は相談したいと思った。
・免許証返納について、生活へどんな影響があるか、もっと勉強したいと思う。また、市町村により返納のメリット、デメリットにかなり差があると思った。
・免許証を返納しても、免許を持っていた証になるものがあること、割引を受けられる制度があることを伝えて、しっかり PR したいと思った。警察と聞くと相談のハードルが高い気がしていたが、気軽に相談できる所であると知ったので、困難事例があれば相談してみたい。
・運転する生き甲斐に代るものを本人と捜していこうと思った。
・運転をしている方と卒業の時期について前もって話をすること。卒業した後の生活について話をする機会を作っていきたいと思った。
・支援関係者はもちろんだが、社会(地域全体)で、高齢者の運転免許の在り方や返納後のサポート(制度、サービス等)体制について考え、仕組みを作っていく必要があると感じた。
・運転免許外来、サポートカー限定条件というものがあるのを知り、悩んでいる方に情報提供したいと思った。免許証を返す時について、自分も考えてみようと思った。
・免許証返納はその後を元気で過ごす為の手段であるという言葉が印象に残っている。すでに返納されている方で、意欲低下気味の方には元気を出していただけるような声掛けをしながら適切な支援に繋げていけるよう関わって行けたらと思う。また、これから返納の方向に動くであろう方については返納されても本人の困惑ができるだけ少なくなるよう、家族やケアマネと相談しながら、日々援助していきたい。
・自身もいずれはそういう状況になると思う。いずれは免許を返納するようになるので、そうなった時に困らないよう早くから相談できるような体制づくりが必要と思う。今日の研修会で警察署は決して敷居の高くない相談しやすいところであると感じた。
・車の運転ができるか評価を行い、関係機関へつなげる。警察が対応してくださることが分かり、連携がしやすくなった。
・本人の意見を聞きつつ、IADL などの範囲を聴取しながら今後について話し合っていきたい。
・本人・家族を適切な相談窓口につなぐことができるよう、情報収集したい。
・リハビリの中でしか関われないため、病棟での生活や患者の性格などをしっかり評価し、今後の運転にどのようなリスクが考えられるか、また運転継続にあたっての注意点、家族への指導等が行えればいいなと思う。
・今回の研修は多職種間で GW をすることができ、それぞれの視点から意見をきくことができた。それぞれの立場から認知症の方の免許問題について話し合うことができたように思う。免許についての課題は、返納して終わりではなく、その後の生活をどう支えていくかという部分でも私たち専門職に介入が必要である。今回の研修でできたつながりを活かし、今後の支援において連携を強めていきたいと思う。
・運転できるかどうか診断を付けることも大切であるが、まずは地域全体で運転の有無に限らず安心して生活

できることが大切だと感じた。そのうえで、本人の状態、今までの生活を踏まえて、本人ができる限り納得できるよう一緒に考えていくことが大切だと思った。
・これまで以上に、患者さんとその家族に外来で確認したいと思う項目が増した。こちらから話題に出さないと、運転免許の話が出てこないことも多いので、確認を怠らないようにしたいと思った。
・多職種の方も情報共有や連携の必要性を感じている様だった。今まで以上に支援者間の関係性を深めることで、より良い支援につながるのではないかと感じた。
・日常的な関わりの中で普段の様子との違いや違和感を覚えるのは支援者の方が多いのではないかと思うので、そこから相談しやすかったり、繋げてもらいやすいような関係性を地域の方々と築けたらと思った。
・医師やケアマネだけでなく、警察や公共交通機関なども含めて、幅広い連携をとれるようなつながりをつくる。
・本日研修でお聞きしたこと、免許返納までの流れをお伝えして、返納後の生きがいや人生の目標を一緒に考えていけるといいなと感じた。
・免許返納後の生活について、多職種で考えていきたいと思った。個人の問題を考えているが、今回の研修会のようにみんなで問題を共有しあうのは解決の一歩だと感じた。
・認知症の方の免許証返納について、色々な機関が取り組みや支援を行っていることを知った。こういった支援体制を知ることで、いざ困った時に相談できる所を知ったのはとても良かったと思う。返納までの事前の話等も大切だが、返納した後もその方がその人らしく生活を続けていけるよう支援していきたい。
・運転免許を返納しても安心して暮らせる社会を願う。医療福祉分野だけでなく、タクシーやバスなど交通機関の充実をしていくための分野との協働が必要かと思うが、どうしていけばよいか考えていきたい。
・今後、関わっていく中で、まだ運転をしている方が「いつ頃まで運転を続けようと思っているのか。運転をやめた後はどのような生活を想像するか」など早めに対応していきたいと思った。私たちが関わる方はすでに認知症になっていたり、免許を返納している方がほとんどであるため、もう少し元気な世代(サロン)などで話ができたらよいのかなと思った。
・認知症以外の病気や薬の副作用を考える視点を持って対応。「返納・卒業」だけを言うのではなく、“別の方法”を提示してその方が少しでも安心して返納できるような声掛けをしようと思う。
・認知症にならないような生活習慣、人との関わりなどができていくようにサポートしたい。
・事前に免許のことに関して話し合いをしておくことの重要性は理解できた。
・運転の卒業について考える時、安全運転相談窓口やシルバーフォローアップスクール、警察に相談等していきたい。高齢者に関わる専門職と情報共有、連携を対応したい。
・元気なうちから、いつまで運転を続けるかの話し合いをする。本人や周りの人を巻き込まないためにも、警察の窓口や病院受診を勧める。

4　認知症について今後多職種で学んだり、話し合ったりしたいこと
・ケアマネさんに薬局薬剤師の上手な活用方法について理解してもらえたのではないかと思う。今後も多職種連携会議の場があったら積極的に参加していきたい。
・認知症で食が進まなくなった時にどうするか、話し合いたい。
・高齢化が進む一方であり、認知機能低下予防になる取組について学びたい。
・食事を食べようとしない方への対応について
・病院受診をしないといけないレベルとか目安はどのくらいとか教えて欲しい。
・自分が認知症になったとして、どんな対応をしてもらいたいか、どんなサービスがあればいいかなど話し合ってみたい。
・認知症の方のケース検討会(アルコール性てんかん、アルツハイマー、病院、地域でかかわっている方)

・何が生きがいや自尊心の維持につながるか話し合い、どんな場があればいいかを話し合う。
・多職種共通での認知症についての基準やカットオフ値みたいなものがあればよいと思った。運転免許返納の助けとなるような評価項目(アンケートの様なもの)があればよいのでは。
・支援や介護を拒む認知症のケース。本人ミーティングについて。
・地域として、認知症の初期対応について具体的に何ができそうか。他の地域の取り組みなどを知る機会があってもいいのではないかと思う。
・他の職種では認知症の方にどういった対応、対策をしているのか知りたい。連携するにあたってどういった情報が知りたいか。
・介護抵抗が強い利用者様に対しての非薬物療法の取り組みを他施設ではどんな工夫や声掛け取り組みをしているのか事例を交えながら聞きたい。
・車のない生活が出来る新見市を考えていく必要がある。今後ますます高齢化なので。予算を費やしてくれないか。
・認知症の治療とケアの最新情報。認知症の方の意思決定。重度認知症の方との関わり、コミュニケーション。超高齢化社会に向けての取り組み、政策等（介護職のなり手がいない中、地域で認知症の方をどう支援していくか）
・運転免許の問題にも関わってくると思うが、アルコール依存の人の問題も取り上げて欲しい。
・アルコール依存症の方への対応等
・認知症の独居の方のサポートの事例など。対応方法も学びたい。